牛道春秋

駐在妻の欄

▼3月上旬のある日、長女が体調不良で学校を休みました。▼朝起こしに行くと、酒焼けしたスナックのママさんのようなガラガラ声で「のどが痛い。」と弱々しく訴えてきました。▼熱はなさそうでしたが、その日は金曜日だったので、無理せず休ませるかなと思いました。▼「学校休む？」と私が尋ねると「どっちでもいい。」と長女は答えました。▼私は「はは～ん、学校を休むと決めたのは、あくまでも母であると正当付ける作戦だな。」と思いました。▼これは夫がよく使う手で、ごはん屋さんなどを決めるとき「どこでもいい。」と言っておきながら、外れだった時に全責任を押し付けてくるあの手法と一緒です。▼子供は親をよく見ているものです。▼それでもクラスメイトに伝染してはいけないと考え、学校へ欠席の連絡をしました。▼こうして合法的に休みを手に入れた長女は、途端に元気一杯になったように見えました。▼しかし、ゲームも漫画も禁止された長女は、日中は暇を持て余し「これだったら学校行った方が良かったな～。」とブツブツ言っていました。▼そんな長女は、夕飯にピーマン9個をペロリと平らげ、満足そうな顔で、いつもより早く眠りにつきました。▼そして、かわいい寝顔でイッテQの椿鬼奴のようなガラガラ声の寝言を言っていました。▼寝言の内容は、鬼奴の時と一緒で、よく聞き取れませんでした。